

2 第2期基本計画総論

(1) 施策体系図

将来の東浦の姿

「つくる つながる ささえあう 幸せと絆を実感できるまち 東浦」

1 いつまでもいきいきと暮らせる健康づくり

- (1) 健康 ①健康づくり
- (2) 社会福祉 ①地域福祉 ②高齢者福祉 ③障がい者（児）福祉 ④児童・母子・父子福祉

2 人を育み、人を活かすまちづくり

- (1) 次世代育成 ①子ども支援 ②学校教育
- (2) 生涯学習 ①生涯学習 ②スポーツ振興 ③文化振興

3 暮らしを守るまちづくり

- (1) 環境 ①地球温暖化防止・廃棄物 ②自然環境保全
- (2) 安全安心 ①河川・治水 ②防災 ③消防・救急 ④交通安全・防犯

4 生活・産業を支える基盤づくり

- (1) 基盤整備 ①市街地・住宅・景観 ②公園・緑地 ③道路 ④公共交通 ⑤上下水道
- (2) 産業振興 ①農業振興 ②工業振興 ③商業振興 ④観光振興

5 地域を維持する・つなぐ仕組みづくり

- (1) 地域活動 ①地域活動 ②情報共有 ③共生
- (2) 行財政運営 ①行政運営 ②財政運営 ③連携協力 ④公共施設マネジメント

(2) 施策の方向

1 いつまでもいきいきと暮らせる健康づくり

誰もが心身ともに健康で自立して暮らせる取組を推進するとともに、子ども・障がい者（児）・高齢者を地域で見守り、支え合うことで安心して暮らせるまちづくりを進めます。

子育て家庭や高齢者世帯が、孤立感や不安感を抱くことなく、必要な時に必要な情報や支援が受けられる環境づくりに取り組みます。

2 人を育み、人を活かすまちづくり

未来を担う子どもの育みにおいては、教育環境や教育の質の向上などを通じて子どもの成長を重視した取組を進めます。

住民の皆さんが自由に学ぶ機会を選択し、学ぶことができる場づくりを進めるとともに、学習成果を活かす場や活動の継続など、自主的な学習活動を支援します。

また、生涯を通じて文化やスポーツに親しめる環境の整備とともに、文化やスポーツ活動を通じた地域における世代間交流の場をつくります。

3 暮らしを守るまちづくり

地球温暖化防止や資源の有効活用などの環境問題に対し、住民、事業者、行政が一体となって取り組み、自然と調和したうまいのある生活環境を保全します。

将来の発生が危惧される南海トラフ地震などの自然災害への備えや、防犯、交通安全、消防・救急の充実、通勤・通学に使用する生活道路の安全の確保などに取り組み、住民の皆さんが安心を得られるようなまちづくりを進めます。

(2) 施策の方向

4 生活・産業を支える基盤づくり

少子化・高齢化・人口減少といった社会環境の変化に対応するためには、その対応の原資となる経済活動の活性化が欠かせないことから、東浦町の恵まれた立地を活かした産業振興に取り組みます。

また、移動しやすく暮らしやすいコンパクトなまちづくりの推進により、徒歩で生活できるまちの実現に向けて取り組みます。

5 地域を維持する・つなぐ仕組みづくり

自分たちの暮らす地域の人々とつながり、地域の課題を協力して解決するなど、地域を維持する・つなぐ仕組みづくりに取り組みます。また、行政サービス提供の場であり、地域での活動の拠点ともなる公共施設のあり方については、住民の皆さんとともに検討し最適なあり方を目指します。

●コンパクトなまちづくり

郊外への市街地拡大を抑制し、生活に必要な諸機能・施設などが住まいの身近にあり、鉄道やバスなどの公共交通が充実し、それらの都市機能の集積地及びその周辺に人口が集積した、効率的で持続可能な都市(まち)。

●行政サービス

官公庁や地方自治体などが、国民や住民に提供する各種サービスのこと。戸籍などの手続き、年金、子育て支援、ごみ処理や公共施設の運営など、行政が提供しているサービス全般のこと。

(3) 土地利用計画

① 土地利用の現況 ～立地を活かして各産業が発展してきました～

東浦町は、JR武豊線と国道366号に沿って、町の東側を南北に市街地が広がり発展してきました。名古屋市を中心部から約30km圏内という通勤や通学に便利な立地から、JR武豊線や名鉄河和線沿線では、公共・民間による大規模な住宅地が整備され、市街地が拡大しました。

また、町南部の衣浦湾沿岸での工業団地の開発に始まり、町中央部や町北部にも工業団地が形成されました。自動車関連産業を中心に、東浦町の産業を支える企業が立地しています。

農地も整備され、丘陵部を中心にブドウ栽培が盛んとなっています。住民の憩いの場としての於大公園、住民が自然と触れ合う場としての東浦自然環境学習の森が整備され、緑との調和も図りながらまちを形成してきました。

●東浦自然環境学習の森

緒川地区の新池周辺約17haの面積で、ため池や水田、草地、樹林地が一体となった里地里山が残る場所であり、多種多様な生き物が生息している。東浦町に残る里地里山環境の拠点として、各種団体と行政とが協働により保全活動を行っている。

(3) 土地利用計画

② 将来展望 ～まちの活気を高め、持続可能なまちづくりをすすめます～

人口減少社会の中、生活に必要なまちの機能はコンパクトに集約しつつ、今後の土地利用計画を通じてまちの活気を高めていきます。経済活動や日常生活は東浦町の中だけで完結するものではありません。周辺市町とのアクセスの向上につながる、国や愛知県の計画などを踏まえ、町の土地利用を対応させていくことが重要です。

製造業の集積地である西三河とつながる、東西のアクセスを強化する幹線道路の整備により、産業・経済活動の活性化を図ります。また、南北のアクセスを強化する幹線道路の整備により名古屋市への利便性を高めます。同時に東西・南北のネットワーク化により、町内の移動の利便性も高めます。

また、2027年開通予定のリニア中央新幹線により名古屋大都市圏の優位性が高まると予想され、圏域への経済波及効果に期待が寄せられています。鉄道は町外、県外へのネットワークの根幹となることから、世代を問わず利用できる鉄道の利用促進と利便性の向上を働きかけます。

町の北部ではあいち健康の森とその周辺の地域を「ウェルネスバレー」と称し、健康、医療、福祉、介護分野など新産業分野の集積地を目指します。

また、各産業の発展とともに、住民の憩いの空間となる緑との調和を図りながら、暮らしやすいまちとしての住宅地形成を計画的に進めます。

人口減少に比例して経済活動が縮小しないよう、産業振興や経済活動の活性化に効果的な土地利用を行い、まちの活気を高める持続可能なまちづくりを進めます。

●幹線道路

主要な地点を結ぶ重要な道路。

●ウェルネスバレー

「あいち健康の森公園」とその周辺エリアを指し、この区域において国立研究開発法人国立長寿医療研究センターやあいち健康の森健康科学総合センターを中心とする健康、医療、福祉、介護の施設の集積を活かした健康長寿に関する一大交流拠点。

●持続可能

将来にわたって持続的・永続的に活動を営むこと。「持続可能な」は、英語「sustainable」(サステナブル)の一般的な訳語となりつつある。

(3) 土地利用計画

③ 目的別土地利用

新市街地系、住宅系土地利用 ～利便性の高い住まいのあるまちに～

既成市街地の大半が人口集中地区となっており、まとまった余白のない状態※です。新たな住民を受け入れるため、既成市街地に隣接する地域に住宅地を整備するとともに、幹線道路や生活道路の整備を推進します。また、日常生活に必要なまちの機能が住まいの身近なところに集まり、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めていくとともに、緑や景観と調和した住みやすい住環境をつくります。

※2020年時点で、町域の18.5%の土地に人口の69.5%が居住しています。

商業系土地利用 ～にぎわいがあふれる便利なまちに～

鉄道駅や周辺幹線道路を中心に商業集積を図り、町内に住んでいる人、町外から訪れる通勤、通学者が利便性を享受できる商業地を形成します。大型商業施設や既存の商店街のバランスも勘案しつつ、ニーズに応じた魅力あるまちづくりに努めます。

●幹線道路

主要な地点を結ぶ重要な道路。

●生活道路

地域住民の日常生活に利用される道路で、地域内の移動あるいは、幹線道路に出るまでの道路。

●コンパクトなまち(づくり)

郊外への市街地拡大を抑制し、生活に必要な諸機能・施設などが住まいの身近にあり、鉄道やバスなどの公共交通が充実し、それらの都市機能の集積地及びその周辺に人口が集積した、効率的で持続可能な都市(まち)。

●ニーズ

Needs(必要。要求。需要。)

(3) 土地利用計画

工業系土地利用 ～新たな企業を受け入れるまちに～

名古屋市や中部国際空港に近い立地や将来想定される名古屋三河道路などの利便性を活かし、新たな企業を誘致します。また、開発にあたっては周辺環境との調和を図り計画的に進めるとともに、近隣市町への広域的な交通利便性を高める都市計画道路の整備を進めます。

新産業系土地利用 ～健康な生活ができるまちに～

あいち健康の森とその周辺をウェルネスバレーと称し、この地区で健康長寿の一大拠点を目指すウェルネスバレー構想を引き続き進めていきます。この地区では、都市計画道路の整備と合わせて工業・物流企業の立地を図るとともに、特に健康・医療・福祉といった健康長寿関連産業などの企業を誘致し、新たな産業地の形成を目指します。

農業系・樹林系土地利用 ～緑や景観と調和のとれたまちに～

農地を集積、集約化し、農業の効率化を図り、農地の持つ景観や防災、環境保全などの多面的機能の維持、増進を図ります。

東浦町の魅力である緑豊かな環境を保全し、自然や景観と調和したまちづくりを進め、東浦町に住む人や町外から訪れた人が楽しむことのできるレクリエーション空間としても活用します。

●ウェルネスバレー

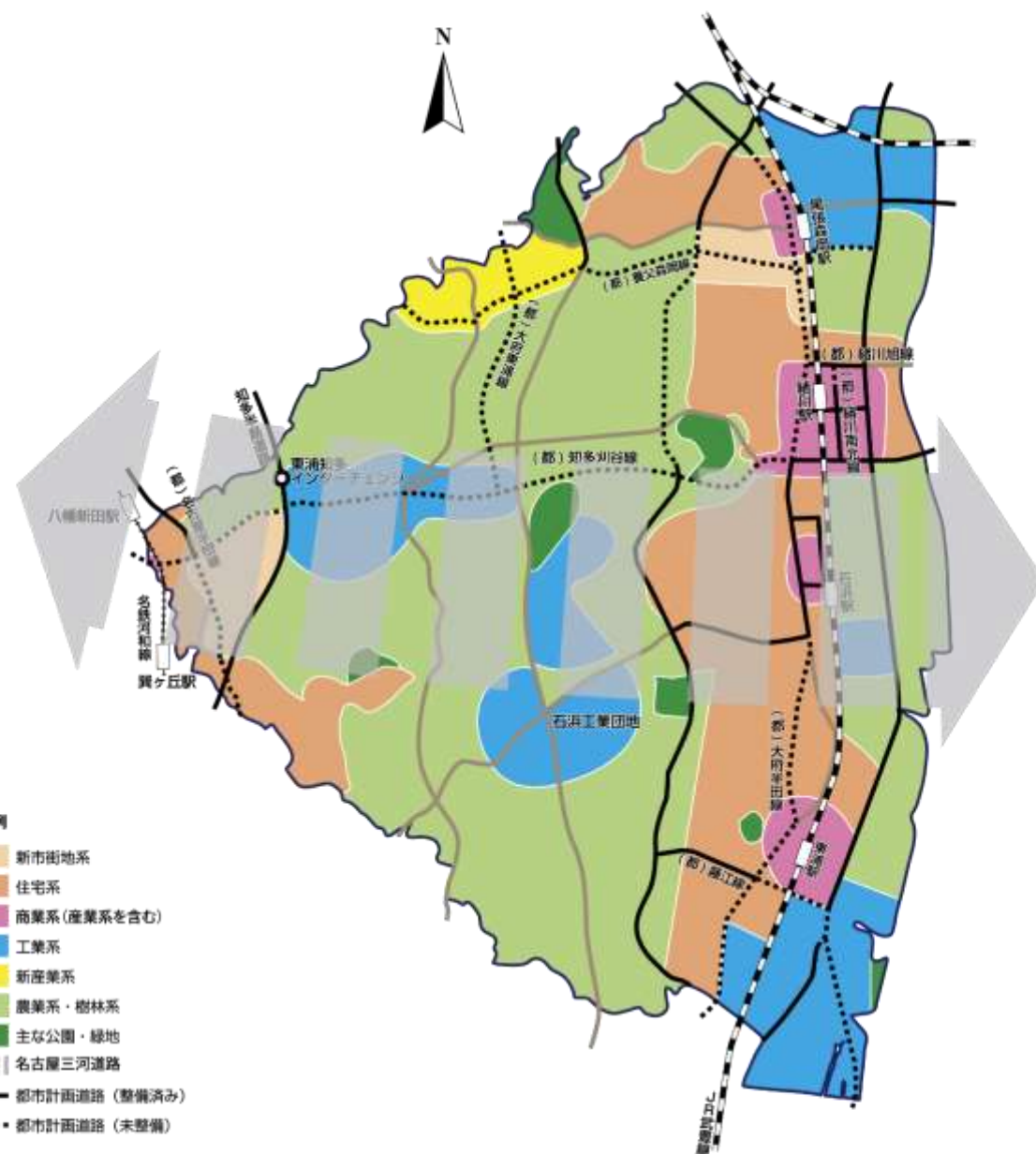
「あいち健康の森公園」とその周辺エリアを指し、この区域において国立研究開発法人国立長寿医療研究センターやあいち健康の森健康科学総合センターを中心とする健康、医療、福祉、介護の施設の集積を活かした健康長寿に関する一大交流拠点。

●レクリエーション

仕事や勉強の疲れを癒やし、元気を回復するために行う娯楽。

(4) 土地利用構想図

15年後の「つくる つながる ささえあう 幸せと絆を実感できるまち 東浦」の実現に向けて、必要な住宅地開発の促進地域や企業誘致の推進地域など、将来の土地利用を示しています。現時点では決定していない東浦町域を含む国、県の幹線道路整備、インフラ整備等の進捗を反映させ、現時点では想定できない社会環境の変化などに対応するため、5年ごとに見直します。



- 幹線道路
主要な地点を結ぶ重要な道路。